中西仁三博士の古稀を祝して

中西博士をわが経済学部にお迎えしましたのは、同志社大学が新制大学に切替えられた後、間もなくの時からであります。爾来博士は学部および大学の要職を務められ、現存に至るまで約十八年に及んだのであります。時に変更はありましたが御担当科目は大学においては財政学や金融論、貨幣論、また教養課程の経済学も、大学院においては財政学特講、財政政策特殊研究、租税論並びに貨幣論をお引受け願ったのでありました。学問の御領域が広かったことはこの事実からだけでなく、後掲の著作目録からも推察出来ることでありましょう。その学風は京大の故神戸正雄博士のそれをうけつがれ、広く欧米の文献を博引傍証の上、正統派と申しましょうか、堅実にして風格高いものが伺われるのであります。したがって後進の学問的指導陶冶の面だけでなく、博士が同大、京大御卒業後、京大経済学部講師から後の幾多の閲歴からしての御識見によって、学部の基礎固めおよびその後の運営の面におきましても大きな足跡を残されたのでありました。博士が経済学部において今日に至るまで要の石としての重い役割を果されたことは、明朗にして濶達、円転にして洒脱、その御風格からして衆望の集る自然の結果であったと言えましょう。大学の講義が多くの学生に喝采をうけたことも永く語りつがれておりますのは、上のことを物語るものでもあります。想い起しますと、博士が還暦を迎えられました時、還暦記念論文集編集出版の計画があり、その旨を伝えましたところ、博士はこれを固く拒まれたのでありました。博士の御気持は還暦を祝って老人の仲間に入れてもらいたくない精神的な若若しさと共に少しでも他人に負担をかけたくないとの謙虚さのあふれるものでありました。これも博士の御性格の現われの一面かと推察いたしました。学部は非礼とは思いつつも博士の御気持も察して、その企画をとりやめたのであ

中西仁三博士の古稀を祝して

りました。

顧みますればその時から已に十年の歳月がたったのでありますが、博士は当時とあまりお変なく、今なお身心共にお健やかに古稀の年を迎えられたのであります。この歓びとかつ一同の感謝の気持がここに凝つて、この記念号となったことは言うまでもありません。

この歓びと感謝の気持が学部に溢れる時、博士の御退任に会わねばならぬことは、われわれの最も遺憾とするところでございます。歓びと惜別の悲しみの複雑な感情が胸に去来するのであります。今後教授会において博士の温容と声該に接することが出来ぬことは寂しさ一入と想うものであります。博士が学部において占められ座の大きかったことは、今後永くわれわれの心の中に想い返されることでありましょう。

われわれはここに改めて、博士のお残しいただいた功績に対して感謝いたしますと共に博士がいやが上にも南山の寿を重ねられますことをお祈りいたします。

昭和三十九年二月

経済学部長
小松幸雄